

村越化石さんと俳句

たましい はいじん

なぜ、「魂の俳人」とよばれたのか？

化石さんの病氣「ハンセン病」は、なおすことがとてもむずかしいものでした。体の見た目のようすから、そばにいと、まわりの人へうつると思われていて、かぞくにめいわくがかかると思い、ひとりでおくに出ていきました。16さいのときでした。

まわりの人びとの目から、かくれるようにちりようをしていたころ、俳句を知ります。せんそうもはじまり、いつ死んでもおかしくない世の中で、りっぱな俳句の先生たちとの出会いがあり、化石さんの俳句はじようずになりました。せんごには病氣によくきく薬が出て、命は助かりましたが、そのあとも体のいたみやくるしみがありません。目もわるくなり、48さいでりようほうの目が見えなくなっていました。

それでも、「心の俳句をつくる」という、先生のおしえをむねにきざんでいる化石さんは、自分のからだのこともなにもかも、すべてそのままを、受け入れました。病氣になつてしまったつらさやかなしみ、くるしみをのりこえて、命のたいせつさや力強さを俳句によむ化石さんは、いつしか「魂の俳人」とよばれるようになり、たくさんの賞をもらっています。「化石」という名まえは、自分のからだはすでに土にうもれて、石となった「もの」だと考えて、自分でつけたそうです。

「……わたしにとって、俳句はすくいであった。自然をうたい、自分のそんざいを作品にのこせたことはよるこびであった。これからも自然とともに生きる俳句をつくりたい。自然を守り、日本語を守るためにも、俳句の火を消してはならないと思う。」

これは、80さいになる年の化石さんのことばです。

左に、村越化石さんの俳句を、いくつかしょうかいします。



生き堪えて 七夕の文字 太く書く(昭和26年)

しせつの俳句なかまで、七夕まつりをした。男の子・女の子それぞれのしせつに住む、子どもたちにもきてもらい、いつしよにかぎった。生きていくからこそ、できることだと思った。

生きねばや 鳥とて雪を 払ひ立つ(昭和46年)

さむい雪の中でも、鳥でさえ 雪をはらって立ちあがる。わたしも、目が見えないという、くるしみやつらさをのりこえて、しっかりと生きていく。

望郷の 目覚む 八十八夜かな(平成7年)

今日は八十八夜。ふるさとは みんながお茶つみにいそがしいときだろう。目に見えなくとも、お茶のかおりで、子どものころのなつかしいけしが、思いだされる。



「玉露の里」にある、化石さんの句碑

第21回 “魂の俳人” 藤枝市村越化石俳句大会 〈小学生の部〉 募集要項

村越化石さんは、大正11年に藤枝市岡部町で生まれました。むずかしいびょうきにかかり、かぞくからとおくはなれた場所にすみ、ちりようを受けました。つらい生活の中で、ゆうめいな先生に俳句をおしえてもらい、すばらしい俳句をつくるようになります。その後、新しくすりがはつめいされて、びょうきはなおりましたが、48さいのときに、りよう目が見えなくなってしまうました。化石さんは、目が見えなくても、前むきですばらしい句をつくりつづけて、「魂(たましい)の俳人」とよばれるようになりました。

平成26年3月に、91さいでなくなるまで俳句をつくりつづけました。

ぜひみなさんに村越化石さんを知ってもらい、俳句をつくる楽しさを学んでほしいと思います。きがるなきもちで俳句をつくり、おうぼをしてください。お待ちしています。

★応募のきまり… 1人1句です。左側の応募用紙を使用してください。

学校でとりまとめて応募してください。

必ず、一つの句の中に季語(きご)・きせつをあらわすことば)を入れてつくってください。

★選者… 【新】高柳 克弘(たかやなぎ かつひろ) 俳句結社「鷹(たか)」編集長、読売新聞朝刊

「KODOMO俳句」選者、中日新聞「中日俳壇」選者、早稲田大学講師

※昨年度までの選者関森氏の推薦により選任

★賞… 村越化石賞(1名) 市長賞(1名) 教育長賞(1名) 文化協会会長賞(1～2名) 入選(10名程度)

★応募締切… 令和7年9月5日(金) ※学校への提出期限は学校の指示にしたがってください。

★主催… 藤枝市

★応募先・問合せ先 〒426-8722 藤枝市岡出山1丁目11番1号

藤枝市役所 街道・文化課

(電話番号) 054-643-3036

★表彰式… 令和7年11月29日(土) 予定 ※入賞者には事前に連絡します

*応募用紙記載の個人情報他に流用いたしません。



1・2年生用

第21回 “魂の俳人” 藤枝市村越化石俳句大会 〈小学生の部〉 応募用紙

★学校名・学年を忘れずに。また、作品と氏名には、ふりがなをおねがいします。

作品 (ふりがな)

学校名	学年	氏名 (ふりがな)
小学校		